

大学における都市観光を題材とした

フィールドワーク教育の実践

Hands-on Fieldwork Education for Urban Tourism in the University

鈴木富之*

Tomiyuki SUZUKI

Abstract

本稿では、都市観光を題材とした巡検教育の実践方法について報告し、その教育的意義について検討した。まず、都市観光を題材とした巡検教育を実施するにあたり、多種多様な都市機能が立地する都市には他地域では体験できない魅力が多数存在していることや、観光客やビジネス旅行者、親戚・友人訪問を目的とした旅行者などさまざまな目的を持った旅行者が大都市を訪れることを指摘した。また、巡検の教育的意義として、対象地域が有する地域性を理解し、他地域との差異（地域差）を把握できることや、異文化理解を促すことができることなどをあげた。

「キーワード」：地理教育 (Geographical education)、フィールドワーク (Fieldwork)、巡検 (Excursion)、都市観光 (Urban tourism)、観光地理学 (Geography of tourism)

1. はじめに

日本における観光形態は社会や経済の動向に対応するように、大きく変化を遂げてきた。高度経済成長期には、農山漁村から都市への人口移動が顕著になり、都市の成長がみられた。こうした状況下、大都市圏外縁部の農山漁村には温泉観光地、スキー観光地、沿岸地域の民宿集落など、数多くの観光地域が形成された。とくに、温泉観光地では、大都市に立地する企業の社員旅行の受け皿として、温泉旅館の林立がみられるようになった。バブル経済期になると、土地取引が活発に行われるようになり、全国各地でリゾート開発の構想が持ち上がった。既存の観光地域においても、観光施設の大規模化や拡充などが行われるケースもみられた。このように、高度経済成長期からバブル経済期にかけて、大都市圏外縁部においてさまざまな観光開発が行われ、マス・ツーリズム型の観光地域が数多く形成された。

*本学専任講師、観光地理学 (Geography of Tourism)

ところが、バブル経済崩壊後 1990 年代半ば以降、経済不況に伴う企業による社員旅行の縮小、観光政策の転換、インターネットの普及、余暇活動の多様化などのさまざまな要因により、日本人の観光形態に質的变化がみられている。具体的には、①名所見物型観光から参加体験・自己実現型観光への変化、②団体旅行から個人・夫婦・家族・小グループの旅行への変化、③周遊型観光から滞在型観光への変化、④他律型観光（エージェント依存型観光）から自律型観光への変化などが指摘されている（米浪 2008: 2-8）。こうした状況下、地域資源を活かした観光振興が全国で行われており、農山漁村ではグリーン・ツーリズム、アグリ・ツーリズム、エコツーリズムなどに重点が置かれるようになった。一方で、それまで観光客の出発地やビジネス旅行者の目的地として認識されてきた都市も、都市再開発やマスメディアによる情報などをきっかけとして、観光対象として注目を浴びるようになった。都市観光には買い物、飲食、芸術や演劇の鑑賞、イベントへの参加など、さまざまな目的が含まれている。すなわち、都市では、名所見物型観光のみならず、参加体験・自己実現型観光も体験することができるのである。

ところで、都市観光では、参加体験、交流、地域資源の活用などが重要視されるため、その地域を熟知した地域づくりの担い手の育成が必要となる。観光学のカリキュラムを設ける大学では、地域への理解を深めることを目的として、地理学などの視点に基づき、フィールドワークを実施するケースが多くみられる。本稿で取り上げる地理学におけるフィールドワークの種類についてみると、主に「調査」と「巡検」に大別することができる（松岡 2012）。まず、「調査」とは、「特定の目的（調査テーマ）をもって調べる活動」のことであり、聞き取り、アンケート、計測、観察などの手法が用いられる。「調査」は目的や方法が明確であるが、指導者と学生の双方に地理学に関する高度な知識と研究の運用能力が必要とされる。加えて、「調査」で得られた成果については、学術論文や大学紀要、報告書などにまとめられ、公表されるケースもあり、下準備、現地調査、執筆などに関わる授業時間数が多く必要となる。こうした特徴から、「調査」に関する授業は主に地理学を専攻している大学院生や大学生を対象として開講されていることが多い。一方、「巡検」とは「観察的方法を中心にいろいろな場所を巡って、地域的特色を見出し、検討していく活動」のことである。視察や観察に重点を置く「巡検」は「調査」よりも高度な能力を必要としないため、授業時間数は少なく済む。また、特定の事象に限定せず、さまざまな事象を取り上げることも巡検の長所である。このように、手軽に実施できる「巡検」は地理学に関する専門的な知識を持つ学生のみならず、地理学の入門者、観光学などの他分野を専攻する学生にとってもある程度の学習効果を期待することができる。

以上を踏まえて、本研究では、大都市の大阪と名古屋を事例として、都市観光を題材とした巡検学習の実践方法について報告し、その教育的意義について考察を加えた。

2. 都市観光の特徴

都市観光は都市で行われる観光を指しており、一般的に「都市」という場所的限定が加わった用語である（淡野 2004: 4-5、杜 2010）。それでは、都市はどのような地域なのであるだろうか。高橋ほか（2000: 5-11）は、「都市は、村落または田園的集落（rural settlement）に対するものであり、居住の一形態をなし、地表面の一部を占める地理的現象である」と指摘している。都市の景観的特徴についてみると、人口の集積による建造物の高密度化、都市の成長に伴う周辺地域における都市的土地利用の拡大、高層ビル群の開発に代表される集約的土地利用の展開などが生じている。また、都市は第 2・3 次産業を中心とした経済的機能、周辺地域の中心地としての機能を有している。しかしながら、都市はさまざまな要素から成り立つ複雑な複合体であり、その役割も変容してきたため、明確に概念規定することが不可能である。とはいえ、多くの研究者が、都市とは人間が多数集まって居住している人口密度が極めて高い地域であると考えていることは一致している。

都市の定義と同様に、都市観光に関する定義も明確ではないが、日本では長谷編（2008）が「都市観光とは、（魅力ある）近代的・現代的都市機能などを享受するために行う日常生活圏を離れた余暇活動である」と定義しており、都市観光地域の代表例として大都市圏を形成する東京、大阪、地方中枢都市である札幌、仙台、神戸、広島、福岡などを挙げている。また、都市観光の内容として宿泊と買物、食事、展示会とイベントへの参加があり、関連施設はホテルや旅館、商店・土産品店、飲食店、都市建築・構造物、劇場、博物館、スポーツ施設などがある（杜 2010）。このように、都市観光では人工的観光対象を志向していることが指摘できる。加えて、公共交通機関の発達がみられる都市は、都市観光の目的地であるとともに、旅行者のゲート・ウェイとしての役割も果たしている。

3. 大学における都市観光を題材とした巡検教育の実践例

筆者は、都市観光の実態や課題の理解を目的とした巡検教育に主眼を置いた授業計画を作成した（表・1）。この授業計画は、4年制大学において演習形式で行うことを想定したものであり、1回あたり90分間の授業を計15回分行うこととした。なお、この授業計画は2012・2013年度に担当した鈴鹿国際大学国際人間科学部観光学科の実習科目「観光特別演習」（2年次配当）をもとに作成したものである。同演習では、2012年度には名古屋と奈良を、2013年度には大阪と京都を対象とした巡検を実施したが、本稿では大都市の都市観光を対象としているため、主に大阪と名古屋における巡検教育の実践について取り上げる。

表-1 「観光特別演習」の授業計画（2013年度）

授業回数	テーマ	内容
第1回	自己紹介 旅行企画	受講者の自己紹介 本授業における巡検実施地域の選定
第2回	都市観光とは？	都市観光の基礎知識に関する講義
第3回	ルート決定	巡検ルートの決定
第4回	発表テーマの分担 レジュメづくり（1）	現地で行う発表のテーマの分担 現地で行う発表のレジュメづくり
第5回	レジュメづくり（2）	現地で行う発表のレジュメづくり
第6～12回	巡検の実施	現地における景観観察および発表
第13回	レポート提出 プレゼンテーション準備	巡検で得た知識および感想のまとめ 巡検で得た知識および感想のプレゼンテーションの準備
第14～15回	プレゼンテーション	巡検で得た知識および感想のプレゼンテーション

注)「第6～12回巡検の実施」については、週末に実施した。
これに伴い、巡検の所要時間に応じて、正規の授業を休講とした。

（筆者作成）

(1) 事前学習と巡検の実施（第1～12回）

1) 事前学習の実施

初回の授業では、自己紹介を実施するなど、受講者が発言する機会を設けた。その際、受講者に「都市と聞いて何を思い浮かべるか?」「都市観光といえばどこを思い出すか?」「どのような観光活動をするために都市を訪れるのか?」「訪れてみたい観光名所はどこか?」などについても質問し、受講者の都市観光に関する知識を把握した。次に、受講者の知識や経験、多機能携帯電話による情報検索をもとに、巡検実施地域の選定に向けた議論を行った。

第2回の授業では、都市観光の基礎知識に関する講義を行った。まず、受講者同士で「なぜ人間は都市に集まるのか?」「都市にはどのような観光資源があるのか?」について議論をした。これらの議論を踏まえて、高橋ほか（2000: 45-48）をもとに、商業機能、工業機能、サービス機能、行政機能などの都市機能の特徴について解説を行うことにより、人間が都市に集まるメカニズムを指摘した。次に、都市観光を行う訪問者はビジネス旅行者、会議や展示会の参加者、観光目的の宿泊旅行者や日帰り旅行者、友人・親戚訪問者、周辺地域への玄関口（ゲート・ウェイ）として都市を訪問する旅行者、立ち寄り旅行者などによって構成されていることを説明した（ロー1997: 55-59）。さらに、都市の観光資源を理解するために、観光の主要素としての文化施設、スポーツ施設、遊興施設、外見的特徴、社会文化的側面などを説明した（Jansen-Verbeke1986）。一方で、二次的要素として位置付けられるホテル、レストラン、ショッピングなども都市観光に不可欠であることを解説した。

第3回の授業では巡検ルートの決定に向けた議論を実施し（図-1）、第4～5回では現地での発表テーマの分担とレジュメづくりを行った（表-2）。これをもとに、現地で巡検を行

い、景観観察を実施し、各自のテーマを発表させた。なお、巡検終了後には、それぞれの地域で得た知識や感想に関するレポートを課した。

a) 大阪巡検（大都市）のルート

鈴鹿国際大学／千里駅集合 — 新今宮 — 通天閣・新世界 ■■■ 鶴橋・生野コリアタウン — 日本橋（でんでんタウン） — 道頓堀・千日前 — 鈴鹿国際大学千里駅解散

b) 名古屋巡検（大都市）のルート

名古屋駅集合 ■■■ 東山動植物園 ■■■ 大須商店街 ■■■ 名古屋城 ■■■ 名古屋駅地下街 — 名古屋駅解散

【凡例】 ■■■ 鉄道 — 自動車 — 徒歩

図-1 「観光特別演習」における巡検ルート（2012・2013年度）

（筆者作成）

表-2 「観光特別演習」における現地発表のテーマ（2012・2013年度）

地域	現地発表のテーマ	解説スポット
大阪	あいりん地区の歴史と現状（簡易宿泊所における客層の変化等）	新今宮
	通天閣と新世界の歴史と現状	通天閣
	大阪市の概要	通天閣
	鶴橋・生野コリアタウンの歴史と現状	生野コリアタウン
	日本橋の歴史と現状	日本橋でんでんタウン
	黒門市場と千日前の歴史と現状	千日前
名古屋	東山動植物園の概要	東山動植物園
	名古屋における名物料理	大須商店街
	大須商店街の歴史と現状	大須商店街
	名古屋城の概要	名古屋城
	名古屋市の概要	名古屋城
	名古屋における地下街の概要	名古屋駅地下街

（筆者作成）

2) 巡検ルートの選定

次に、いかなる問題意識を持ち、大阪と名古屋における巡検のルートを選定したのかについて述べる。

第1に、学生に都市機能の特徴を理解させ、なぜ人間が都市に集まるのかについて考えさせるために、通天閣や名古屋城といったランドマークとなる建造物から都市景観を鳥瞰的に観察させた。例えば、大阪の市街地を一望できる通天閣では、その北部の都心方面では高層ビル群が立地しているのに対し、その南部に見える JR 大阪環状線の外縁部には低層住宅地が集積している。こうした都市景観の観察により都市機能の分布パターンを可視的に理解させた。

第2に、レストラン、ショッピング、ナイトスポットも重要な都市観光の要素であることを学習させるために、新世界、千日前・道頓堀、日本橋のでんでんタウン、大須商店街、名古屋駅地下街などの繁華街や商業集積地区において景観観察を実施した。例えば、大阪

ではお好み焼きや串カツを、名古屋では味噌カツを実際に味わいながら、これらの地域の名物料理について解説させることにより、飲食施設が都市観光の要素であることを理解させた。また、日本有数の電気街である日本橋のでんでんタウンでは、家電製品販売店や電気部品販売店の集積地区からアニメ・ゲーム関連商品販売店、ゲームセンター、コスプレ系飲食店（メイド喫茶など）の集積地区へと変化を遂げたことを解説させた。

第3に、マイノリティ集住地区が持つ地域資源を活かした観光振興の動向について学習させるために、鶴橋・生野やあいりん地区において景観観察を実施した。在日韓国・朝鮮人の集住地区（コリアタウン）である鶴橋・生野では、韓国料理店や韓国芸能人関連商品販売店が集積しており、その歴史的背景と現状について説明させた。また、日本を代表する日雇い労働者の集住地区（寄せ場）の1つであるあいりん地区では、バブル崩壊以降の経済不況に伴う建設需要の低下により、彼らの仕事が減少し、野宿化するケースがみられている。こうした状況下、日雇い労働者の生活空間であった簡易宿泊所（ドヤ）において外国人をはじめとする旅行者の受け入れが行われおり（松村 2009）、同地区の歴史や現状を踏まえて簡易宿泊所における客層の変化などを解説させた。

(2) 事後学習（第13～15回）

第13回の授業では前述のレポートや現地で撮影した写真を用いて、解説スポット(表-2)ごとに巡検で得た知識や感想をテーマとしたプレゼンテーションの準備を行い、第14～15回はこれらについて発表させた。プレゼンテーションについては学内のコンピュータ設置室で行い、プレゼンテーションソフトウェア「Microsoft PowerPoint」を利用した。

最後に、プレゼンテーションを踏まえて、東京、大阪、名古屋といった大都市における都市観光の特徴について解説し、授業を総括した。

まず、都市機能の多様性がみられる大都市では、他地域で体験できない魅力が多数存在していることを解説した。大都市には政治機能、商業機能、文化機能、教育機能、娯楽機能などが集積しており、多くの訪問者を引き付ける。とくに、文化施設やスポーツ施設、遊興施設、商業施設などは多くの観光客を受け入れている。なかには、六本木ヒルズや渋谷ヒカリエのように都市再開発に伴って新たに誕生したり、東京ディズニーリゾートや東京スカイツリーのようにマスメディアによる情報をきっかけとして注目を集めたりするケースもみられる。また、大都市には、個性的な繁華街、商業集積地区、マイノリティ集住地区がモザイク状に複数形成されている。例えば、渋谷、原宿、裏原宿、表参道（東京）、堀江（大阪）、名古屋駅地下街（名古屋）には服飾洋品店が、秋葉原（東京）、日本橋（大阪）、大須（名古屋）にはアニメ・ゲーム関連商品販売店が、新大久保（東京）、鶴橋・生野（大阪）には韓国料理店と韓国芸能人関連商品販売店が集積している。以上を踏まえて、大都市には、複数の個性的な繁華街、商業集積地区、マイノリティ集住地区が形成したり、

さまざまな集客施設が立地したりしているため、観光客が自らの趣味や興味に応じて様々なアトラクションを選択でき、このことが都市観光の魅力の1つになっていることを解説した。

次に、さまざまな目的を持った旅行者が大都市を訪れることを説明した。都市を訪れる旅行者として、第1にビジネス旅行者の存在が指摘できる。多くの企業が大都市に本社を設置したり、多国籍企業の進出がみられたりするため、大都市が有する中心地としての機能が強化されてきた。そのため、多くのビジネス旅行者はビジネスや商業の中心的存在である大都市に出張し、空港や鉄道などの公共交通機関、ホテルをはじめとする宿泊施設、飲食施設を利用するのである。また、大都市にはコンファレンス施設やシティホテルなどが立地しており、会議や展示会を目的としたビジネス旅行者もそこを訪れる。こうしたビジネス旅行者は業務の遂行を目的として大都市を訪問するが、自由時間には観光名所を訪れたり、ショッピングをしたりするなど、都市観光を楽しむこともある。第2に、観光を目的とした旅行者の存在が指摘できる。大都市には文化施設、スポーツ施設、遊興施設、商業施設などの人工的観光対象が立地している。これらの施設は都市観光の主たる目的地となり、多くの観光客を引き付けている。また、大都市周辺のコンベンション施設や会議場では、コンサートや展示会などのイベントが多数催されており、国内外から多くの参加者が訪れる。一方で、公共交通機関の利便性に優れ、ゲート・ウェイの役割を果たしている大都市には、立ち寄り客や乗り換え客も多数訪れている。例えば、訪日中国人団体旅行者の行動パターンを明らかにした金（2009）によると、東京や大阪はショッピングスポットであるとともに、日本のゲート・ウェイとして機能しており、彼らの重要な訪問地となっている。第3に、大都市には親戚・友人訪問を目的とした旅行者も存在している。その場合、親戚・友人の居住地のみならず、新宿、池袋、渋谷、東京などのターミナル駅やその周辺の飲食施設などが待ち合わせ場所となることもある。以上を踏まえて、大都市にはさまざまな目的を持った旅行者が集まっており、こうした賑わいが都市そのものの魅力を高めていることを解説した。

4. 都市を題材とした巡検教育の教育的意義

ここでは、学生が作成したレポートやプレゼンテーションなどを通じて、都市観光を題材とした巡検がいかなる教育的意義を有しているかについて考察をする。なお、本章では京都巡検や奈良巡検の成果も含めることとする。

第1に、地理学的見地からみると、事前学習や景観観察を通じて、対象地域が有する地域性を理解し、他地域との差異（地域差）を把握できる学生がみられたことが指摘できる。あいりん地区で、簡易宿泊所の料金表から宿泊料金の低廉さを指摘し、他の宿泊施設との

機能的な相違を論じる学生もみられた。また、アニメ・ゲーム関連商品販売店やコスプレ系飲食店が集積する日本橋について、一般男子学生が、「戦後の名残で、現在でも裏路地ではラジオやテレビ、パソコンなどの基盤やパーツが販売されている」と指摘しており、景観観察をもとに戦後の同地域における地域変容を読み取った。このように、巡検対象地域の景観観察により、対象地域が持つ地域性を理解しようとする姿勢がみられた。

第2に、異文化に関心を持ち、これらを積極的に理解しようとする学生がみられたことが指摘できる。鶴橋・生野の韓国料理店では、一般学生が韓国出身の留学生から教わった韓国語で店員とコミュニケーションをとったり、料理を注文したりした。また、留学生が日本文化に関心を持ち、積極的に食文化などに触れる姿勢もみられた。例えば、名古屋巡検に参加した韓国出身の留学生は初めて食べるお好み焼きや味噌カツなどの日本料理に挑戦し、いろいろを購入する姿がみられた。このように、巡検を通じて異文化理解を促すことができたと考えられる。このほか、「自分が知っている知識を留学生に説明し、案内することで日本の良さを伝えることができた」(一般女子学生)、「一般学生と友達になれることも嬉しかった」(中国出身女子学生)といった意見があげられるなど、一般学生と留学生の交流もみられたことも指摘できる。

5. おわりに

本稿では、大都市の大阪と名古屋を事例として、都市観光を題材とした巡検学習の実践方法について報告し、その教育的意義について考察を加えた。まず、都市観光を題材とした巡検教育を実施するにあたり、多種多様な都市機能が立地する都市には他地域では体験できない魅力が多数存在していることや、観光客やビジネス旅行者、親戚・友人訪問を目的とした旅行者などさまざまな目的を持った旅行者が大都市を訪れることを指摘した。また、巡検の教育的意義として、対象地域が有する地域性を理解し、他地域との差異を把握できることや、異文化理解を促すことができることなどをあげた。

都市は国際空港を含めた公共交通機関の利便性により周辺地域へのゲート・ウェイの役割を果たし、都市の固有文化や最先端の技術などに触れることができるため、1990年代以降、都市観光は重要な観光形態の1つとして認識されつつある。こうした現状を踏まえて、今後、観光学のカリキュラムを設ける大学では、講義やフィールドワーク、議論などを通じて学生が都市観光の実態と課題を理解できる授業を積極的に導入していくことが必要であろう。

謝辞

筑波大学大学院生の Malinda Siriwardana 氏には、英文表題に関する貴重なご助言をいただきました。鈴鹿国際大学国際人間科学部観光学科で開講した「観光特別演習」の受講者は以下のとおりであり、彼らから巡検に関する貴重なご意見・ご要望をいただきました。ここで厚くお礼申し上げます。

①奈良巡検（2012年5月26日）：薛 佳愛、薛 仲愛、龐 秋、包 嶺小、ヤップ＝ルー＝フェン、渡辺栄太。②名古屋巡検（2012年7月16日）：薛 佳愛、薛 仲愛、龐 秋、包 嶺小、ヤップ＝ルー＝フェン。③大阪巡検（2013年5月25日）：グェン＝チョン＝フン、陳 演鎬、荷川取雄飛、松岡高志、水谷 隼、山口翔大。④京都巡検（2013年6月2日）：郭 静、木下結美子、左 珍鈺、鍾 敏玉、世古苑子、ドアン＝スオン＝ディエン。

参考文献

- 金 玉実 2009. 日本における中国人旅行者行動の空間的特徴. 地理学評論 82: 332-345.
- 米浪信男 2008. 『現代観光のダイナミズム』同文館出版.
- 高橋伸夫・菅野峰明・村山祐司・伊藤 悟 2000. 『新しい都市地理学（第2刷）』東林書林.
- 淡野明彦 2004. 『アーバンツーリズム—都市観光論』古今書院.
- 杜 国慶 2010. 都市観光に関する諸問題. 立教大学観光学部紀要 12: 49-57.
- 長谷政弘編 2008. 『観光学辞典（第11版）』同文館出版.
- 松岡路秀 2012. 巡検等の学習の基礎的考察とワンポイント巡検の提唱. 松岡路秀・今井英文・山口幸男・横山 満・中牧崇・西木敏夫・寺尾隆雄編『巡検学習・フィールドワーク学習の理論と実践』古今書院. 2-8.
- 松村嘉久 2009. 大阪国際ゲストハウス地域を創出する試み. 神田孝治編『観光の空間—視点とアプローチ』ナカニシヤ出版. 264-274.
- ロー, C.M. 著, 内藤嘉昭訳 1997. 『アーバン・ツーリズム』近代文芸社. Law, C.M. 1993. Urban Tourism: Attracting Visitors to Large Cities. New York, Mansell.
- Jansen-Verbeke 1986. Inncercity tourism, resources, tourists, and promoters. Annals of Tourism Research 13: 79-100.